



◀株式会社花火創造企業 代表取締役社長の小松忠信さん

今回のレポート先
株式会社花火創造企業

〒014-0073
秋田県大仙市
内小友山根89番地31
TEL 0187-73-5101



とうほく 元気 レポート

人々に夢と感動を届けたい！

そして元気で豊かな街づくりに貢献する

秋田県大仙市で開催される全国花火競技大会「大曲の花火」。全国から集まった花火師が華麗な花火を披露し、県内外から訪れた多くの観客を魅了してやまない日本屈指の花火競技大会です。

「100年以上の歴史を誇る大曲の花火で地域を元気にしていきたい」と株式会社花火創造企業の小松社長。会社の経営理念は「大曲の花火文化を通して、人々に感動を届けるとともに、日本の花火文化のさらなる発展と、地域社会と協調による元気で豊かな街づくりへの貢献」。今回は、大曲の花火に情熱を注ぐ企業の社員が一人となった取り組みを紹介します。

安全で高品質な国産花火を打ち上げよう

花火創造企業は、大仙市内の花火製造会社や地元企業などが出資し、大曲の花火製造技術を活かした花火の生産拠点づくりを目指して、2015年4月に設立されました。

同社の設立の背景には、花火業界が抱えている深刻な問題があります。現在、日本国内で使われている花火玉のうち、技術力が必要な大型の花火玉は国産が主体となっていますが、汎用性のある小型の花火玉の多くは、中国など海外からの輸入に頼っているため、品質が安定していないなどの問題を抱えています。そのためすぐれた品質の国産花火玉を作り広く提供していくため、大仙市内の花火関係者が立ち上がったのです。



▲2017年4月に開催される「国際花火シンポジウム第16回大会」の開催地が大仙市が決まりました



▶夏の「全国花火競技会」以外にも毎月花火が打ち上がります
(ポスターは2016年の年間スケジュール)



▲さまざまな形の花火を組み合わせ
て魅せる創造花火
(写真提供:大曲商工会議所)



▲雄物川を眺めながら対岸で打ちあ
がる花火を観覧する人々
(写真提供:大曲商工会議所)



▲大曲の夜を彩る花火
(写真提供:大曲商工会議所)

花火に育てられ、花火を育ててきた大曲

大曲の花火の歴史は大仙市大曲地区にある諏訪神社祭典の余興花火として、1910年(明治43年)に開催された「奥羽六県煙火共進会」が始まりとされ、戦後、「全国花火競技大会」になりました。現在ではさまざまな形を組み合わせ、て魅せる創造花火など全国から選ばれた花火師が技術と芸術性を競う全国屈指の競技大会となりました。

大曲地区では、結婚式や入学式には花火を打ち上げ、地域みんなで祝います。小さい頃から花火に親しみ花火を大切にしてきた大曲の人々。花火の生産拠点づくりに対しても、地域皆さんのあたたかな理解のもと進んでいます。

「花火産業構想」の核となる企業として

大仙市では、少子高齢化や若者の県外流出による人口減少など、地域経済や雇用情勢が厳しい状況にある中、大仙市が誇る全国花火競技大会「大曲の花火」が有するブランド力を最大限活かし、製造業や観光、商業、文化、教育などさまざまな分野にまたがる発展軸を形成しながら、地域活性化に取り組む新たな試みとして「大仙市花火産業構想」を策定し、2014年3月にスタートさせました。「花火創造企業」はこの構想の核となる「新たな花火の生産拠点」として期待されています。

「伝統を継承し、次代を担う」。それが同社へ課せられた大きな役割ともいえます。

海外産に勝ち、業界の発展に役立ちたい

2017年春に本格稼働を目指す花火創造企業の花火工場。ここで手掛けるのは全国的に需要がある「スターマイン」などに使われる4号玉以下の小型の花火玉です。地元の花火業者が得意とする高度な技量と付加価値の高い5号玉以上の花火玉の製造とすみ分けを図ります。現在、4号玉以下の小型の花火玉は中国など海外に頼っているため、品質が低く、欲しいときに欲しい数量が手に入らないなどが悩みということでした。「品質とコストとのバランスを取り、広く供給できる態勢を築くことで海外産との競争に勝てると確信しています」と小松さん。そして、「その結果、花火業者が大玉の開発にもっと専念することができ、花火業界を発展させることが出来ると思います」と話しいただきました。

社員全員、大曲の花火が大好き！

輸入花火を「大曲産の国産花火に置き換える」を目標に、同社の社員は地元の花火製造会社へ研修に行き、製造・安全性の技術習得に励んでいます。「危険物である火薬類を扱うために一番重要なことは、基本的な製造手順を守り続けることです。その基本の習得には、経験の積み重ねが必須です」と小松さん。

「社員に共通しているのは、みんな『花火大好き人間』なんです。全員が大曲の花火を盛り上げたいとの強い信念を持って、花火以上の熱い情熱で取り組んでいます」と小松さんは笑顔を見せます。



▲研修先で製造・安全性の技術を習得している花火創造企業の社員のみなさん



◀花火大会運営のサポートをする様子



▲さまざまな種類の火薬と炎色剤などを混合する配合作業



▲花火を丁寧に組み立てる作業



▲全国的に需要がある4号玉(約12センチ)以下の花火玉



▲星(火薬の粒)を丸く大きくする星掛作業

大曲の花火 イベント情報



10月・11月・12月 イベント日程

10/8(土)

大曲の花火 秋の章(3,000発打ち上げ予定)

場所: 飯田沼つり公園西側 ☎ 0187-62-1262(大曲商工会議所)

10/9(日)

第7回四ッ屋まつり(500発打ち上げ予定)

場所: 大仙市四ッ屋公民館 ☎ 0187-66-1500

11/3(木)

第10回全日本残月花火選手権大会

場所: 大仙市北檜岡地区の田地 ☎ 0187-62-0883

12/23(金)

大仙南部地区イルミネーション花火(800発打ち上げ予定)

場所: 大仙市角間川町川港親水公園 ☎ 0187-62-1262

※開催日時・場所・打ち上げ予定数などは変更される場合がございます。お問い合わせ先にご確認の上、お出かけください。
NPO法人大曲花火倶楽部 ☎ 0187-62-6887

国際花火シンポジウム

世界の花火と日本の花火の共演をぜひご堪能ください。

(一般公開日)

・4月25日(火) 約7,000発

・4月27日(木) 約7,000発

・4月28日(金) 約7,000発

・4月29日(土) 約12,000発

事務局 ☎ 0187-73-5781



花火大会の情報はここから

<大曲の花火 全国花火競技大会>

<http://www.oomagari-hanabi.com/index.html>

大曲商工会議所 ☎ 0187-62-1262



▲代表取締役社長の小松さんと社員のみなさん

高い評価を背景に、目指すは世界進出

2017年4月に「第16回国際花火シンポジウム」が大仙市で開催されます。このシンポジウムは世界各国の花火関係者が一堂に会し、研究成果の発表や取引商談が行われる国際会議で、日本での開催は2回目となります。期間中には国内の花火業者と世界の花火業者が共演する花火ショーが行われます。

日本の花火は、品質の高さから海外の花火大会でも高い評価を得ており、世界各国の花火業者から取引商談があります。「今後は国産花火玉を輸出するノウハウを確立し、海外へ日本の花火玉を売り込みたい。近い将来、世界の夜空を大曲の花火で彩り、『花火創造企業』の名前を広めていきたい」と小松社長は意気込みを語ってくれました。

